

第 15 回セミナー&サロン報告

企画委員長 小澤守

平成 17 年度のセミナー&サロンが 10 月 21 日、東京ガス株式会社殿のご協力の下、同社千住テクノステーション A 館 7 F 大会議室において盛大に開催された。動力エネルギーシステム部門にとって本セミナー&サロンは中心的とも言うべき行事で、企画担当者としては最も緊張するものでもある。本年度は「将来のエネルギー供給と分散型エネルギーシステムークリーンエネルギー社会を目指してー」と題して、水素エネルギー関連技術の中心的な研究者である横浜国立大学の太田健一郎教授による「水素エネルギーと環境負荷」と、会場をご提供いただいた東京ガス株式会社常務執行役員の村木茂氏による「東京ガスの技術開発と今後のエネルギー供給について」の 2 件の講演を頂いた。いずれも興味深い内容であり、詳細は本ニューズレターに掲載されているのでご参照願いたい。



セミナーに引き続いて千住テクノステーションの概要説明と家庭用燃料電池、水素ステーション、ガスエンジンコジェネの見学、さらに燃料電池車 2 台の試乗と引き続いた。特に燃料電池車の加速性能はすばらしく、興味深い体験となった。



引き続いてサロンの部に移り、まず部門賞贈呈式が開催された。受賞者についても別途報告があるので詳細は割愛するが、有富部門長の挨拶、浜松部門賞委員長の選考経過報告ののち、4 名の部門賞・功績賞、8 名の部門一般表彰・優秀講演表彰が行われた。懇親会は同館 4 F の社員食堂にて和やかに行われ、会場あちこちに話の花が多く咲き誇った。



今回のセミナー&サロンには本年度の受賞者や過去の受賞者をふくめて 90 名程度の参加があった。出席者の顔ぶれをみると、企業からの参加者が大学からの参加者に比べて圧倒的に多い。実はこれが当部門の特徴であり、まさに **Society of Mechanical Engineers** を体現しているところでもある。動力エネルギー技術のみならず全ての技術は、大学での基礎研究のみによって成立するものではなく、また企業のみでも将来の発展は難しい。最近の標語でもある産官学連携はペーパーベースあるいはマニュアル的側面だけで形成される

のではなく、まず大学、企業間の人的な交わりのなかで醸成されるものであり、その中でこそ新しい技術の芽をはぐくみ、新しい人材を育成できるものと思う。

ごく最近、神田の古本屋街で昭和 18 年初版発行（共立出版）という当時 46 円あまりの富塚清編著「航空発動機」を見つけた。筆者はもちろん直接お目にかかったことはないが、エンジンの大先生であり、「内燃機関の歴史」という名著もある。緒論の中の一文（p.12）に「.. 今後はこつこつと粘り強く一つのを追求する人の多数が必要



となることは確かであるが、そういうことが飯よりも好きな性質の人を選出し、正しく育成することが必要であると共に、そういう人に生き甲斐を感じしめるような環境乃至伝統の確立も併せて必要だと思われる。」とある。技術や技術者集団のあり方についての卓見である。我々の動力エネルギーシステム部門のあり方も斯くありたいものである。

最後に今回の企画に対して、絶大なご協力を賜った東京ガス株式会社殿、ならびに関係各位、そしてご参加いただいた会員各位に厚く御礼申し上げます次第である。なお第16回は株式会社東芝殿のお世話で開催する予定である。多数の方々のご参加をお待ちしています。

